



大学コンソーシアムひょうご神戸
東日本大震災・熊本災害復興支援
学生ボランティア広報紙

2017
Vol.01

平成29年12月発行

■編集／

学生ボランティア広報担当

■発行／

ひょうごボランティアプラザ

神戸市社会福祉協議会

大学コンソーシアムひょうご神戸

■デザイン／

イワサキ出版印刷有限公司



やってみたいをやってみた
学生が創るボランティア。

もくじ

- 2・3 学生だからできること、学生だからできたこと
- 4・5 5 か月間の活動の記録と参加者たちの声
- 6 大学コンソーシアムひょうご神戸ボランティア活動の
移り変わり（7年間）
私たちは現地での活動の他にもこんなことをしています
- 7 災害の移り変わりと私たちにできる災害ボランティア
- 8 おすすめ Spot & Food
ボランティアお役立ち情報

宮城県 名取市

なとりし

ともに笑う

みたぞの 美田園北復興公営住宅 ▶▶ 夏の思い出づくり



美田園北団地では、住民の方と一緒に暑い夏を乗り切るためにスイカ割り。水プールでキンキンに冷やしたスイカを、目隠ししながら木のバットで「パーン」と上手に割ることが出来ました。そして、そのスイカを持ちながらみんなでパシャリと記念撮影。撮影した写真は、すぐに現像して手作りフォトフレームに入れてひと夏の思い出としてプレゼントしました！



めでしま 愛島東部仮設住宅 ▶▶ 味は七変化♪

愛島東部仮設住宅では、たこ焼き作り＆茶話会。そう！“たこ焼きパーティ”です。生地の中に、チーズ、醤油、宮城名物のささかまと、いつもと違うたこ焼きに住民の方も大盛り上がり！茶話会では、みんなで談笑。やはり、一緒に食べると距離が縮まる！帰りのバスを追いかける子どもたち。最後は「ありがとう」が行き交う活動となりました。



学生だからできること、 学生だからできたこと

震災から6年経って

平成23年3月11日。M9.0の地震。死者15,467名。行方不明者7,482人。避難者数124,594人。津波の高さ最大9m以上と人間の予想を、遥かに超えた、未曾有の大地震でした。津波で家が流され、1つの町が無くなる。がれきの山。“がれき撤去”が必要になります。これが震災直後に取り掛かることのひとつでした。

震災から、6年経った今。仮設団地から復興公営住宅に移住する人々の増加。そんななか仮設住宅に残る住民。「復興とは、なんだべ？」自問自答の日々が続きます。私たち学生にできること。それは、そばにいて。話す。耳を傾ける。共に笑う。同じ時間を共有する。これが、震災から年月が経った今、必要なこと。



続く仮設住宅での生活



平成28年4月14日、4月16日、暗闇を襲った2度の震度7。観測史上初めてのことでした。死者247名、そのうち震災関連死が192名にも上りました。家屋倒壊が激しく、がれき撤去がまず始めに取り掛かる作業となりました。

被災から約1年半。仮設住宅の供与期間は原則2年と定められており、その後は自立再建が求められますが、大半の仮設住宅で供与延長が決まっています。

住民ごとに抱える不安や問題はバラバラ、だからこそ一人ひとりの心に寄り添い、お話を傾けることが大切なのです。



熊本県 益城町

ましきまち

心に寄り添う

くししま 櫛島仮設団地 ▶▶

～戻ってきた、花と笑顔～

仮設団地に住む住民さん同士の繋がりを強くしたい。私たちの活動が、その繋がりを生み掛け橋になれば…

そんな期待を込めて繋がりと継続をテーマに、お花を植え、育てることを考えました!!花の色や花言葉を一つひとつ調べて、櫛島仮設団地に似合うお花と共に、笑顔を届けることができました。とても温かく優しい住民の方たちばかり。今も、満開の花と満開の笑顔が咲いているといいな。



テクノ仮設団地 ▶▶ 響く笑い声



集会所でアロマキャンドル＆オーナメント作りをしました!アロマキャンドルは、色々なグラデーションができたり、香りがついてとても可愛い仕上がり。色々な形、色の個性の詰まった作品が完成し、みんな喜んで持って帰られました。

テクノ仮設団地の近くにある大きな広場。大量の水風船と水鉄砲を用意!遊び終えるころには、みんなずぶ濡れに。活動を終えた今でも、あの時の子どもたちの笑顔と笑い声が忘れられません。



5か月間の活動の記録と参加者たちの声

ボランティア活動の記録を参加者の感想とともにご紹介します。

わたしたちが参加しました。

名取市の活動に参加



森本 優太
兵庫大学 2年生

益城町の活動に参加



北村加奈萌
甲南大学 3年生

参加者の声
Voice



研修会の成果を活かし、楽しい時間を過ごせた。

ぼっぼくらぶの方々やカフェへいらっしゃった方々から色々な話を聞くことができて、とても有意義な時間でした。以前の研修で習った、同じ目線で話すことや沈黙も大切にすることを意識しました。この経験を活かして現地でも頑張りたいです！



参加者の声
Voice



しっかり準備して成功させたい！

どのチームも本番に向けて良いものを作ろうとしている、という熱い想いが伝わってきました！準備を整えて、最高のものを作って、現地の人々に届けたいなあ。なとりまるのメンバーならそれができると思っています。なとりまる最高なので(笑)。本番はしっかり成功させて笑って終わりたいなあ～



5月13日(土)
オリエンテーション & 第1回研修会

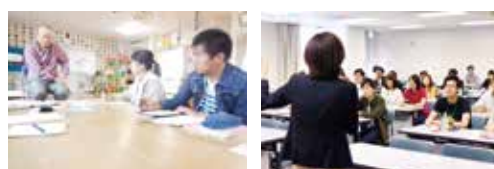
5月27日(土)
第2回研修会



6月3日(土)～4日(日)
現地ヒアリング：熊本県益城町
熊本学園大学交流会

6月9日(金)～11日(日)
現地ヒアリング：宮城県名取市

6月17日(土)
ヒアリング報告会 &
第3回研修会 &
チームミーティング



6月29日(木)～
7月29日(土)

神戸での体験プログラム
・ぼっぼくらぶ (神戸市東灘区)
・浜御影児童館 (神戸市東灘区)
・喫茶カーナ (神戸市須磨区)
・細田児童館 (神戸市長田区)



8月4日(金)
第4回チームミーティング & 研修会



参加者の声
Voice



緊張と不安…でも何かしたい！

オリエンテーションが始まる前は、他校の人ばかりで、正直、緊張しすぎて、不安しかなかったですね(苦笑)。でも、気さくなグループの仲間や、頼りになる学生スタッフの姿を見ると、その不安はすぐに活動したいという期待に変わりました！これから、積極的にこの活動に参加していきたいと思います。



参加者の声
Voice



被災地の方々と謙虚に向き合いたい。

相手に寄り添い、分かれようとするのが相手の気持ちに少しでも近づくために必要だと思いました。自分自身が謙虚な姿勢で、一人ひとりと向き合い、現地の方々に私たちと出会えてよかったと思っていただくために、今回学んだことを活かしたいです。



参加者の声
Voice



宮城と神戸、それぞれの経験を活かす。

実際に子どもを前に活動しました。児童館の子どもは元気いっぱい！その元気に、圧倒されてばかりでした(笑)。今回で子どもと関わるコツを掴めました。この経験を宮城で活かし、そこで得たものを持ち帰りまた神戸で活かす。このサイクルを繰り返して震災のリレーを繋げていきたいと思っています。

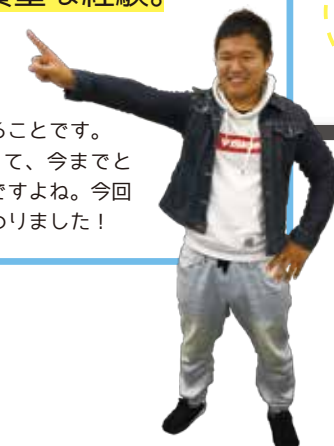


参加者の声
Voice



価値観が変わった、貴重な経験。

僕は、ボランティアをする時にいつも意識していることがあります！それは、広い視野で物事を見て、感じて、考えて、今まで見ていなかったところに意識を集中することです。そうすると、新たな考えや思いが見えてきて、今までと違った見方、考え方をすることが出来るんですね。今回も貴重な経験を通じて、価値観が大きく変わりました！



宮城県名取市
活動本番



8月25日(金)～28日(月)
3泊4日
宿泊：東北学院大学

8月25日(金)

学生研修・交流会
・東北大学、尚絅学院大学の学生らとのグループディスカッション



8月26日(土)

美田園第一仮設住宅
・牛乳パック流しそうめん
セレモニー、茶話会や
カラオケ大会



美田園北復興公営住宅

・スイカ割り、
フォトフレーム作り

8月27日(日)

愛島東部仮設住宅
・草むしり、たこ焼きと
茶話会



8月28日(月)

増田児童センター
・子どもたちと紙飛行機作り、
クイズラリーなど
名取が丘児童センター
・子どもたちと昼食や
たこせんを食べたり、
一緒に遊ぶ



9月23日(土)
振返り会



熊本県益城町
活動本番



9月8日(金)～11日(月)
3泊4日(うち車中2泊)
宿泊：元気の森かじか

9月9日(土)

テクノ仮設団地
・子どもたちとボールや水鉄
砲などで一緒に遊ぶ
・アロマキャンドル作り、
風船オーナメント作りや
茶話会



9月10日(日)

柳島仮設団地
・花を植えたり、お茶会を楽しむ
小池島田仮設団地
・換気扇の掃除、軒先のペンキ塗りや、
アロマキャンドル作りなど
飯野小仮設団地
・子どもたちとゲーム大会、やきそば作り、
表札作り
赤井仮設団地
・落ち葉の清掃、どらやきやみたらし団子作り



参加者の声
Voice

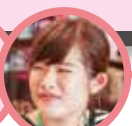


臨機応変に対応できた！

午前にはアロマキャンドル作り、午後は茶話会をしました。午前中に工作に参加できなかった方のために工作スペースを設けるなど、臨機応変に対応できました。想像していたよりも多くの方が来て下さいました！"誰のためのボランティアか"ということを考えないといけないなと感じました。



参加者の声
Voice



笑顔のおかえしをいただいた！

希望者の方々のお家の換気扇掃除や、ペンチの色塗りをしたところ、とても喜んでいただけました。午後からはアロマキャンドル作りや折り紙をしました。グループ全員が1日目の反省を活かして行動できていました。"熊本の方々に笑顔を届けたい！"と、思っていました。逆に私たちがいっぱい笑顔もらいました！



参加者の声
Voice



大変だったけど、やり遂げたことを、人生に活かしていきたい！

私は部活をしているのでミーティングに参加できない日も多かったのですが、グループのみんなに助けってもらいながら活動をやり遂げることができました。企画を通して熊本の方々とコミュニケーションをとり、"被災地の現状"や、"災害の教訓"などを持ち帰り家族や友人に話すことが今回のボランティアの意義だと考えました。自分がどうでありたいのか自分自身と向き合いこれからの自分の人生に活かしていきたいです。



大学コンソーシアムひょうご神戸 ボランティア活動の移り変わり(7年間)



2011・2012

東日本大震災から、約半年が経った2011年8月。現地での初めての活動。愛島東部仮設団地を訪問しました。今も続くボランティア活動は、ここからスタート！



翌2012年度も愛島東部仮設団地を訪問し、2年連続での訪問で、活動を“続ける”ことの大切さを感じることができました。愛島東部仮設団地での活動は、震災から7年目となる今年も続けられています。



私たちは現地での活動の他にも こんなことをしています

事前ヒアリング

夏の活動を前に、数名の学生が現地へと足を運びました。訪問先は、主に夏に活動する仮設団地や児童館です。

ボランティアを行う上で大切なこと、それはニーズに応えることです。

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震災、北九州北部豪雨…あらゆる災害のニュースは過去のものとなり、今やメディアで見かけることがなくなりました。

実際に現地を訪問し、目の前にいる人のことを知りたいと

2013・2014・2015

以前から活動していた愛島東部仮設団地に加え、植松入生仮設団地でも活動をスタート。さらに、児童センターや保育所にも訪問し活動しました。訪問先を大幅に増やし、よりたくさんの方々と“繋がり”をもつことができました。



また、2014年度には東北学院大学、尚絅学院大学の学生との交流を、新たな活動として行いました。ともに被災した地域である、宮城、兵庫に住む学生同士が防災・減災について考える貴重な機会となりました。



2016

4月、熊本県益城町を襲った地震。私たちも、すぐに益城町で活動を行いました。発災から2ヶ月後の6月のことでした。

前年までと同じく、名取市での活動も継続し、また、復興公営住宅で初めての活動を行いました。仮設団地とはまた違った雰囲気があり、震災からの時間の経過を感じることができました。



さらに年が明けた2017年2月、「全国学生ボランティア交流フォーラムIN神戸」を開催！被災地域を中心とした、全国の14大学から28名を神戸に招聘しました。阪神・淡路大震災の教訓や各大学の活動情報の交換を行い、テレビ局や新聞社などからも取材が入る、注目度の高いフォーラムとなりました。（参加者計22大学45名）



災害の移り変わりと 私たちにできる災害ボランティア

災害の移り変わり（段階）

発災後 数日間

混乱状態に陥る。

家屋倒壊・火災・津波等により甚大な被害が出ます。前触れなく起こる災害に、誰もが自分の身の回りで起こっていることを判断することができず、被災地域一帯が混乱状態に陥ります。救助を待つ人の生死を分ける時間の目安は、発災から72時間でこれ以降の救助による生存率は著しく低下するといわれています。



1か月 程度まで

依然続く混乱。

発災以降の避難行動、身内の安否確認などの自分自身の行動や、メディアからの情報を得ることにより、自分の身の回りで起こっていることがわかってきますが、この先どうなるかわからない将来に不安を感じる人が増えます。各避難所でも依然混乱が続くものの、救援物資の配付などが始まります。ボランティア等外部からの支援も本格的にスタートします。混乱を抱えながらも、復興・復興への歩みがここから始まります。



半年 程度まで

復旧・復興に向けて。

道路や交通機関などハード面の復旧が本格化する一方で、応急仮設住宅が完成し始めます。高齢者世帯や未就学児がいる世帯を優先的に、避難所から応急仮設住宅への移動が始まり、慣れない環境での生活がスタートします。



半年 程度以降

慣れない生活。山積する課題。

応急仮設住宅への移動がさらに進み、発災直後に開設された避難所が閉鎖されます。慣れない土地での生活。応急仮設住宅は、災害救助法によって建築工事完了から2年が供与期間と定められていますが、実際には恒久住宅が建設されるまで、供与期間が延長されていきます。その後は、復興公営住宅への移転、もしくは自力での住宅再建が必要となります。

高齢者をはじめとする低所得世帯は経済的に自立再建が困難なことが多いです。復興公営住宅の多くは一般的なマンションと比べても遜色ない造り。プライベートな空間の保障、安心のある生活。しかし、その裏側では地域コミュニティの希薄化、それに伴う孤独死など、防がなければならない課題が山積しています。



ボランティア活動

「1日でも早く力になりたい」…はやる気持ちを抑えて!!

発災直後は命の危機とたたかい。救助活動や避難所の開設が進められる最中に被災地を訪れることは、いたずらに混乱を招くだけでなく、あなたの身に二次災害の危険がおよぶ恐れもあります。力になろうと被災地に赴いたはずが、かえってSOSを発信する…なんてことにならないよう、まずは冷静な状況判断を。

被災地での活動は“自己完結”することがなにより大切。情報や移動手段、食事、宿など「行って・活動して・帰ってくる」までに必要なものは、できる限り被災地を頼らず自前で用意しよう！



片付けや力仕事だけが災害ボランティアじゃない！

ガレキの片付けや泥かきだけが災害ボランティアの活動ではありません。「体力には自信がない…」という方でも、避難所の清掃や災害ボランティアセンターの運営支援のように力になれることはきっとあるはず。

また、現地の“復旧”作業が終わってからも、さらに“復興”へと向かうためには息の長い支援が必要です。その時々どのようなボランティアが求められているのか・自分にできることはないかと常にアンテナを張り、“被災地を忘れずにいる”ことも大切なことです。

学生の私たちに、今、できること。

復旧が進み、災害の爪痕が薄れゆくにつれて、報道で取り上げられることも少なくなっていく被災地。そして、次第に見えづらくなっていく被災者の姿。しかし、復興に向かう歩みは始まったばかりで、将来にわたり続いていくもの。そんななか私たちにできることは、被災地の方々が自分たちの力で復興へと歩めるよう後押しすること。

災害で大切な人や財産を失い、将来への不安を抱える方々に寄り添う“心”の支援。私たちは、そのために仮設住宅などを訪問し、そこに暮らす方々との交流を深めたのです。

「私の話に、ただ耳を傾けてくれるだけで嬉しい」
「里帰りするような気持ちでまた遊びに来てね」
これらは、交流を通して実際にいただいた言葉です。

忘れ去られることへの不安や誰にも言えずにいた本音。私たちの活動は、こうした気持ちを受け止めて未来へと向かう元気を取り戻していただくためにあります。

復興への道のりは長く、この一度きりでは充分とは言えません。だからこそ続け、また多くの人にもその大切さを伝えることで支援の手を広げていきたいと考えています。





修復完了が
待ちどおしい！



熊本城 ◀Spot ▶Food

地震により大きな被害を受けた熊本城。天守閣や周辺の石垣などは損壊がひどく、現在も本丸（天守閣）周辺は立ち入り禁止となっていますが、2020年の復興に向け工事が急ピッチで進んでいます。また、熊本城敷地内にある、お土産屋やごはん屋が立ち並ぶ“城彩苑”は、たくさんの観光客で賑わっていました！！



とっても神秘的

鍋ヶ滝 ◀Spot

阿蘇山の北側にある鍋ヶ滝は、CMの舞台となり有名になりました。「裏見の滝」と言われ、滝の裏側に入り水の流れを間近に見ることができます！周りの木々と滝のコントラストは幻想的な光景です！！

白川水源 ◀Spot

阿蘇山のすぐ麓にある水源。この白川水源は観光庁の名水百選にも選ばれる有名な場所です。毎分60トンもの湧水が地底の砂とともに湧き上がり、その水音はとて清らかで木々の間に心地よく響き渡ります。



KUMAMOTO

観光地やグルメを楽しむことも、その地域を元気にする方法のひとつ。

長いながい春休みに
ぜひ宮城・熊本へ！！



おすすめ Spot & Food



歴女に大人気！

伊達 政宗 ◀Spot

青葉山（仙台城跡）に伊達政宗の騎馬像があります。丘陵地帯に立ち、まるで仙台の街を見下ろすかのように佇んでいます！すぐ近くには伊達政宗を祀る瑞鳳殿があり、その装飾は色彩豊かで見る者を魅了します。かつて東北で名を馳せた伊達政宗の足跡をあなたも辿ってみてはいかがでしょうか。



瑞鳳殿

MIYAGI



圧倒的めかぶ感！

松島 ◀Spot ▶Food

宮城県の松島湾にある島々とその周辺の丘陵を含めた景色が、日本三景の1つに数えられています。海の青と松の緑が絶妙なコントラストとなり、とてもきれいな景色です！

名物の“三陸めかぶ丼”とたてのめかぶを使っており食感も抜群！これは要チェックです！！



ずんだシリーズ ◀Food

宮城のおやつといえば、やはり“ずんだ餅”。すり潰した枝豆を餡として用いた餅菓子です。枝豆は潰しきらず少し豆のごつごつした食感を残しています。ほのかな甘みがお茶請け菓子にぴったりです！

また、“ずんだシェイク”という新たなずんだの楽しみ方も！空港や駅で販売されており、若い世代を中心に人気急上昇中です！！

牛タン ◀Food

仙台に来たら、これを食べずには帰れません！厚めにカットされた牛タンは味・食感共に最高！！牛タン専門店は数多くあるので、食べ比べするのもおもしろい！おすすめのお店を見つけてSNSで友達に自慢しちゃいましょう！！



ゆりあげ 関上港朝市 ◀Spot ▶Food

震災後に息を吹き返した市場の代表格！毎週日曜と祝日、朝6時から13時まで開催しています。市場で購入した魚介類はその場で炉端焼きにして食べることができたり、新鮮な海鮮丼も種類がたくさん！一般の方が参加する“競り体験”なども行われ、多い時には県内外から1万人を超える人が足を運ぶ人気の朝市となっています！

海の幸に舌鼓



ボランティアお役立ち情報

兵庫県内外の様々なボランティア募集情報がアップされています！災害ボランティアだけでなく、高齢者や子どもたちを対象とした地域のボランティア活動など、みなさん一人ひとりにぴったりのボランティア活動が必ずあるはず！！あなたもボランティアに参加してみませんか？

- ◆ ひょうごボランティアプラザ（コラボネット） <https://www.hyogo-vplaza.jp/>
- ◆ 神戸市社会福祉協議会 <https://www.with-kobe.or.jp/>
- ◆ 大学コンソーシアムひょうご神戸 <http://www.consortium-hyogo.jp/>

本紙をご覧になって、ご意見・ご感想などをぜひお聞かせください！

◆お問い合わせは…

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会

〒651-0072 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2-8

兵庫国際交流会館1F

【TEL】078-271-0233 【FAX】078-271-0244

【E-mail】info@consortium-hyogo.jp



<http://www.consortium-hyogo.jp/>